

## 平成24年度における自死遺族支援にかかる取組

### 1 西多摩保健所 わかちあいの会

○平成19年9月事業開始

○実施主体：東京都（西多摩保健所）

○目的

1) 自死遺族が安心して自らの痛み（悲しみ、苦しみ）に向き合う場を提供する。

2) 参加者がそれぞれのペースに合わせて自分らしさを取り戻していくことを支援する。

○対象

自死で家族等を亡くした方。居住地は問わない。

○開催日時

奇数月、第4土曜日午前10時から12時まで

○開催場所

平成20年度より立川市女性総合センターアイム（それまでは平日、保健所内で開催。）

○当日の運営スタッフ

西多摩保健所保健師4名、都立多摩総合精神保健福祉センター職員1名で、受付、外回り、グループ参加を分担する。NPO職員2名がファシリテーターを担当している。

(単位：人)

年度	回数	年度毎の実人数	実人数(再掲)		延べ人数	1回平均
			新規(5年通しの実人数)	継続		
H19	4	9	9		11	2.8
H20	6	23	17	6	34	5.7
H21	6	28	22	6	46	7.7
H22	6	26	14	12	44	7.3
H23	6	32	21	11	40	6.7
H24	4	12	6	6	17	4.3

※平成24年度は11月までの実績

## 2 「自死遺族の集い運営研修」(平成24年度新規)実施予定

### ○ 目的

遺族が素直に気持ちや思いを分かち合うための集いの場(分かち合いの会)を行う団体の活動が増え、充実するように、運営スタッフやファシリテーターとなる人材の養成を行う。

### ○ 実施主体

東京都(委託により実施)

### ○ 日程

平成25年3月6日(水曜日)及び3月22日(金曜日)の2日間

### ○ 場所

東京都社会福祉・保健医療研修センター

### ○ 対象者

区市町村職員、民間自殺対策活動団体職員等

### ○ 主な研修内容

- ・喪失悲嘆について ～悲嘆反応・自死の場合の特徴的な反応や課題等
- ・自死遺族の集い運営の実際 ～分かち合うことの意味・グループの立ち上げ・ルール・スタッフの役割など
- ・自死遺族の集いのシミュレーション ～分かち合いの流れ・生じやすい課題など
- ・遺族の集いに保健師が関わる意味
- ・支援活動の現場から ～法的な対処について
- ・支援者のセルフケア(講義とグループワーク)
- ・自死遺族の集いの運営で大切なこと(グループワーク)

### 3 区市町村の実施する自死遺族の集い

#### 足立区分かちあいの会「とまり木」

○平成21年7月開始

○開催日時

原則毎月第1金曜日 18時半から20時半まで

○実施方法

NPO法人に委託

○実績

23年度 12回実施 実人員 23人参加、延べ 95人参加

24年度 7回実施 実人員 16人参加、延べ 48人参加

(平成24年 9月まで)

#### 日野市わかち合いの会

○平成22年8月開始

○開催日時

毎月第4日曜日 14時から16時まで

○実施方法

NPO法人に委託

○実績

23年度 10回実施 延べ 33人参加

24年度 8回実施 (全12回中) 延べ23人参加

(平成24年11月まで)

○参考

◇市内：市外は約1：4で市外在住者の方が多い。

◇男女比は約1：2で女性の参加者が多い。

◇市外からの参加は、都内だけでなく神奈川県や埼玉県在住の方もいる。

◇参加理由は、他団体でのわかち合いからの紹介が多い。